

令和6年度第2回坂出市地域公共交通活性化協議会会議録	
日 時	令和7年1月22日(水) 14時30分～16時00分
場 所	坂出市役所本庁舎2階大会議室
出 席 者	(委 員) 土井健司会長【議長】、宮崎耕輔副会長、淵田竜輔委員、成澤啓汰委員(十川裕史委員代理)、齊藤亮委員、入江正憲委員、松浦佳子委員、川崎泰弘委員、上野智弘委員、池内丈史委員、河田幸治郎委員、山下勝久委員、浦田俊一委員、大熊高弘委員、林尚志委員、溝渕雅治委員、鷺岡宗利委員、中原光喜委員 以上、18名 (事務局) 政策課 福崎課長補佐、亀井主事
欠 席 者	(委 員) 川滝浩嗣委員、松下将史委員 以上、2名
オブザーバー	谷岡拓海オブザーバー(四国運輸局)
傍 聴 者	4名
議事次第	1. 開会 2. 議題 (1) 令和6年度補正予算(案)について (2) 令和6年度運行の実績報告と分科会実施報告について (3) 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について (地域内フィーダー系統)(利便増進計画推進事業)(バリア解消等促進事業) (4) 令和6年10月から実施の事業の経過報告について (5) その他 3. 閉会

会 議 概 要

(1) 令和 6 年度補正予算(案)について

発 言 者	発言要旨
事務局	《資料に基づき説明》 ・ 地域内フィーダー系統国庫補助金について、従来は事業者が直接国に申請していたところ、地域公共交通計画策定団体として今年度から協議会で一括申請する方式となる。それに伴う国庫補助金の受け入れと各運行事業者への支出に関する補正予算案となる。 ・ 国からのフィーダー系統運行補助については、利便増進実施計画の認定により、通常と比較して、8,571 千円増額となっている。
議長	・ 今年度から協議会による一括申請に変更になるとともに、計画の認定により国庫補助が増額になるというありがたい内容であった。 ・ 委員から質問や意見はあるか？
各委員	(特になし)
議長	・ それでは異議なしということで承認することとする。 ・ 計画の認定やそれに伴う国庫補助の増額についても委員のみなさんのご協力あつてのことなので、感謝する。

(2) 令和 6 年度運行の実績報告と分科会実施報告について

発 言 者	発言要旨
事務局	《資料に基づき説明》 ・ 議題 2 で実績について確認いただいた上で、議題 3 において事業評価をお願いする。 ・ (資料 2-1 で令和 5 年 10 月からの取り組み内容と効果検証内容について確認) ・ 資料 2-2 は路線別の比較グラフとなる ・ 全路線グラフでは、全体傾向として利用者数が増加、収支差赤字額の減少、国庫補助額の増加、それらに伴う市補助額の減少が確認できる。 ・ 瀬戸大橋線は、無料デー実施日において特に利用者が増加する傾向があるため、無料デー効果もあって利用が増えている。 ・ 循環バスについて、再編による効率化で運行便数が減少しているため、それに伴い利用者数も減少している。 ・ ただし、減便率と比較すると、利用者の減少率は小さく、1 便当りの利用者数も増加しているため、利便性を損なうことなく効率化を図れたと考えることも

	できる。 ・また、他の路線と合計した路線バスの利用者数は増加しており、ゾーン制運賃の効果で、循環バスだけでなく他の路線バスとの相互利用が進んでいるという傾向も窺える。 ・循環バス東ルートは国のフィーダー補助が増額、西ルートについては宇多津町まで運行するため、地域間幹線系統として運行できている。 ・青海行き路線バスは、再編により費用削減と利用者増を実現した。また、国のフィーダー補助が増額となった。 ・デマンドについても、国のフィーダー補助が増額となった。 ・デマンドの中心部の乗降場所増設等の効果で、府中・西庄地区では特に利用者が増加した。加茂・神谷等地区では、新設された乗降場所の利用は好調なものの、ヘビーユーザーの利用動向の変化により、利用者数は減少となった。 ・瀬居線については、路線バス化によるサービス向上により利用者数は増加したが、費用が増加し、収支差は悪化した。 ・資料 2-5 のキャッシュレス利用率についても、無料デーの効果などで、緩やかに増加傾向にある。 ・デマンドタクシーの利用率については、狭い車内で乗り合うため、ロコミによる広がりが大きいためか利用率 40% 超と高くなっている。 ・資料 2-6 は、地域公共交通計画に掲げる目標値に対する最新の経過実績となる。 ・全体指標については、全て改善傾向にある。 ・個別指標では、循環バスの利用者数について、再編による減便で減少となっているが、1 便当りの利用者数の増加が確認でき、上手く効率化を図れたと考えることもできる。 ・また、他の路線バスの利用が増えていることから、ゾーン制運賃の効果が出ていると考えることもできる。 ・資料 2-7 では、坂出市地域公共交通計画策定後の取り組み過程、地域公共交通計画に掲げる事業の実施状況を示しており、概ね計画通りに事業を実施していることを確認できる。
議長	・分科会の座長を務められた宮崎副会長から補足はあるか？
副会長	・協議会での事業評価に先立ち、昨年 12/18 に交通事業者を中心とした分科会で、利用実績や現場の声の確認を行った。 ・循環バスについて、平成 22 年度策定の地域公共交通総合連携計画に基づき、平成 24 年から運行しているコミュニティバスで、利用者数についての注目度も高いと思われる。 ・循環バス利用者数の推移だけを見ると減少しているので悪いと思うかもしれないが、他の路線を確認すると利用者が増えている。これは、従来なら路線バス

	を便利に使えたとしても運賃が安い循環バスを我慢して使っていたが、ゾーン制運賃により運賃が統一されたことで、他の路線バスも利用しやすくなり分散したと考えることもできる。よって地域全体として利用者が増加していて良いことだと評価することもできる。 ・昨年 10 月の「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム」において、国土交通省のかたと話しをする機会があった際に、坂出市の取り組みは国の補助制度を上手に活用した素晴らしい取り組みだと評価をいただいた。また、都市計画学会の学会誌の支部トピックスにおいても坂出市の取り組みを紹介した。 ・このように坂出市の取り組みは、全国的な優良事例となっていることを委員の皆様にも共有させていただきたい。
議長	・資料の実績や宮崎副会長からのご報告も含めて意見はあるか？
副会長	・追加で補足させていただくと、資料にもあるように、王越地区で「王越ささえ♥隊」という住民団体と継続して協議しており、2 ヶ月に 1 回の集まりに私も参加している。 ・令和 6 年 10 月からの東北エリアの公共交通再編にあたっては、地域独自で P R 資料を作成されるなど、地域の利用促進に貢献されている。
議長	・交通事業者から補足はあるか？
委員 (バス事業者)	・コロナで利用者の減少があった中で、利便増進実施計画に基づく取り組みによって坂出の路線に活気が出たと感じている。 ・キャッシュレスなどの取り組みも事業者独自では実施が難しかったところ、補助金を活用しながら実施していただいた。最初は乗務員に戸惑いもあったが、1 年経過し、利用者も増えて、乗務員も扱いに慣れてきたため、今後も利用促進につながると考えている。 ・運賃についても、これまでの上限認可運賃では現金収受も複雑だったところ、ゾーン制運賃により分かりやすく、利用しやすくなったと感じている。 ・瀬居線の路線バス化については、バスロケ対応といったメリットに加えて、大きい車両を確保できるようになったことで、小学校の校外学習等にも使えるようになったというメリットもある。
議長	・バスドライバー確保についてはどうか？
委員 (バス事業者)	・昨年 10 月に運転手が確保できないという理由で減便となった。 ・その後も運転手確保に取り組んでいるが、採用ができて退職もあり、人員は増えていないのが現状である。

議長 委員 (タクシー事業者) 議長	・早期退職の自衛官に向けた説明会や、求人サイトへの掲載、運転手転職サイトのどらなびのイベント参加なども実施したが、依然厳しい状況にある。 ・タクシー事業者はどうか？ ・資料からも分かるようにデマンドタクシーの TicketQR 利用率が上昇している。 ・若い乗務員も増えてデジタル化への対応ができていることも利用促進につながっていると思う。 ・労働力の確保が難しいという声もあったが、坂出市の取り組みは、全国的にみても上手くいっている事例と考えられる。 ・計画やデザインを考えるにあたり重要なことを、頭文字をとって「カ・シ・コ」と表現する。 ・「カ」は「カタチ」で、一番重要なネットワークをどのようにするか、いかに利用者が利用しやすいようにデザインするかということになる。 ・「シ」は「シクミ」で、国の補助制度のことであったり、また坂出市ではゾーン制運賃や TicketQR、パターンダイヤなど様々な仕組みを活用していて、全国的にみても最先端の仕組みを導入していると評価している。 ・「コ」は「ココロ」のデザインで、これは王越ささえ♥隊など地域の人たちで支えていくということになるが、例えば TicketQR の利用促進にあたり、地域の人たちともっと連携するなどすれば効果が高まると思う。 ・「カ」と「タ」は進んだ取り組みとなっているので、「コ」についてもより推進していけるよう委員のみなさまのご協力をいただきながら進めていければと思うのでよろしくお願いします。 ・実績について、循環バス単体については残念ながら利用者数が減少したものの、ゾーン制運賃により他の路線バスの利用者が増えたということで全国的に見ても大変珍しい効果だと思う。 ・鶴岡市の取り組みが循環バスの利便性向上で優良団体として国土交通大臣表彰を受けている。素晴らしい取り組みである一方で、輸送資源の供給量の問題で、周辺地域でドライバー不足が深刻化しているということも聞く。 ・このように輸送資源の取り合いが大きな問題となっている地域もある一方で、坂出市の取り組みは労働力の確保が難しい状況においても、労働力の取り合いや、周辺地域も含めたバスの持続可能性を脅かすような取り組みにはなっていないと評価することもできる。
(3) 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について	
発 言 者	発言要旨

事務局	《資料に基づき説明》 ・資料 3-1 が地域内フィーダー系統の運行・車両減価償却の補助金に関する事業評価、資料 3-2 が利便増進実施計画認定団体に対する利用促進等の取り組みへの補助金である利便増進実施計画推進事業の補助に関する評価、資料 3-3 が大和タクシーさんで令和 5 年度に導入したリフト付きの福祉タクシー車両に関する評価となる。資料がそれぞれ事務局案となるが、委員のみなさまに意見をいただいたうえで、協議会の一次評価として国に提出することとなる。 ・地域内フィーダー系統については、令和 5 年 6 月の運行計画策定時の目標値と実績値との比較を示している。各種見直しに基づき目標値を設定したが、少し目標が高かったのか、達成率としては 100%を下回る結果が多くなっている。 ・改善点としては、協議会での PDARU サイクルの推進に加えて、市民に関心をもってもらえるような取組の推進を記載している。 ・PR ポイントとしては、議題 2 の結果をとりまとめて、利便増進事業やモビリティマネジメントの実施等により、坂出エリアの地域公共交通全体では、路線再編・運行効率化による費用減、運賃の総合的見直しと利用促進による利用者増・収入増・収支差赤字額減、利便増進実施計画認定による国補助増、それら効果による市補助額減を達成したことを記載している。 ・系統別の事業評価としては、取り組みの効果はあったものの、目標値には達しなかったということで B 評価が主となっている。 ・特記事項の部分では、乗務員不足の影響や、令和 6 年 10 月の見直しについて記載している。 ・資料 3-2 は、利便増進実施計画推進事業に関する評価案となり、基本的に概ね計画通りに実施できているということで A 評価としているが、モビリティマネジメントの SNS キャンペーンについては、参加者が想定より少なかったということで B 評価としている。公共交通の魅力を発信いただくことを目的として実施したが、少し投稿のハードルが高かったと思われるため、今後はさらに広く関心を高められるような取り組みを進めていきたい。 ・資料 3-3 のバリアフリー車両のどうにゅうについては、計画通りに実施されており、A 評価としている。
議長	・事務局の評価案に対して気になるところはあるか？
副会長	・資料 3-1 の目標効果の達成状況について、B 評価としている部分が多いが、確かに路線単体でみると目標ができていないけれども、先ほどから紹介されているように、地域全体でみると公共交通利用者が増加しているということで、そのような記載をしたうえで、A 評価に改めたほうが良いと思う。 ・この事業評価が本省に上がり、最終的に財務省などで国の予算が適切に使われているかという判断材料になると思われるが、B 評価というところを見ると循

	環バスの利用が減っているからダメだという評価になりかねない。決してそういうことではなく、循環バスだけでなく公共交通のネットワークの観点でみるべきなので、そういった観点から A 評価でよいと思う。 ・デマンドタクシーについても、何か特筆する事項があれば、A 評価としても良いと思うが、事業者から意見があればお願いしたい。
議長	・私も同意見である。 ・運輸局としてはいかがか？
オブザーバー（四国運輸局）	・事業評価について、協議会から運輸局に提出いただき、二次評価を実施したうえで本省に提出ということになるが、一次評価については、副会長のご指摘のように適切な根拠を示す記載をいただいたうえで、A 評価としていただいても差し支えない。
議長	・委員のみなさんも A 評価としていただくことで異論はないか？
各委員	《異議なし》
議長	・異議なしということなので、事務局のほうで適切な記載を追加した上で、A 評価として国に提出いただければと思う。

(4) 令和 6 年 10 月から実施の事業の経過報告について

発 言 者	発言要旨
事務局	《資料に基づき説明》 ・資料では 10 月から 12 月の 3 ヶ月間の実績を、変更前の 1 年前と比較して示している。 ・路線バスの減便に関連したものでは、島田岡田線について、減便に対して利用者が増加しているが、これは通学定期券の利用者が、学校卒業者数に対して入学者数が多かったことが想定されると、分科会時にバス事業者から聞いている。 ・循環バスについて、東ルートは減便率以上に利用者が減少しており、不安要素があるが、西ルートについては、マルナカスーパーセンター宇多津店バス停の利用が増えていることもあり、減便のなかでも増加傾向にある。 ・大幅な路線再編となった東北エリアでは、乗務員不足による路線バス減便や一部区間廃止に対して、路線バス、デマンドタクシー、地域のスーパーマーケットのハローズ坂出林田店、住民団体の王越ささえ♥隊で共創して地域の移動手段を確保する取り組みとして国の共創・MaaS 実証プロジェクト補助金の採択を受けて実施している。

	・直通路線バスの王越線(木沢行き)については、大幅な減便の一方、通学等で一定の利用者数が残っている。 ・青海行き路線バスを再編した林田循環では減便のなかでも利用者数は概ね横ばいとなっている。 ・新設の東北エリアデマンドタクシーでは、3ヶ月間で471人と、デマンドタクシーの運行が初めてのエリアとしては順調な利用だと考えられる。 ・デマンドタクシーにより、路線バス沿線から離れた集落においても、デマンドタクシー専用の乗降場所の設定が可能となり、特に王越町の浜焼山集会場の利用が多く好評である。 ・従来のデマンドタクシーについては、エリアの再編や設定便数の増便を行った。 ・府中・西庄地区と加茂・神谷等地区を統合した東南エリアでは、設定便数の増加に伴い利用者数が増加しているところ、実運行便数については、大きな増加がないため、上手く乗り合って効率的に運行できていると考えられる。 ・川津地区から拡大した南エリアにおいては、拡大エリアの大池町の乗降場所の利用が増えていることや、川津町内のエリア内移動も増えている。 ・6月の協議会でも紹介させていただいたデジタルサイネージ「スマートバス停」について、今月導入が完了した。 ・坂出駅においては、観光案内所前に設置し、バスの直近の発車情報を一覧できることで、次のバスがいつ来るかすぐに分かりようになり、利用しやすくなった。 ・また、公共交通無料デーの実施など取り組みをPRすることができ、利用促進の効果も期待できる。 ・さらに台風時等の悪天候による運休情報についてもオンラインから即時に配信できるとともに、来月の丸亀ハーフマラソンのように前もって決まった運休の情報についてもスムーズに案内が可能となる。 ・公共交通以外の案内も配信することが可能で、現在は、中心市街地再整備に関する動画も流しており、立ち止まって見ている人も多い。このような情報発信により他のジャンルとの連携推進や、公共交通への関心を高められるよう取り組んでいきたい。 ・市立病院に関しては、目立つところでは正面にバス停があるが、それ以外にも病院周辺徒歩5分圏内に全部で5つバス停があり、複数の路線で利用しやすくなっている。それらバス停の案内と、それらバス停から発車する全てのバス発車情報を発信することで利便性をPRするとともに、遅れの情報も表示することで、暑い日・寒い日に前もってバス停で待たずとも直前まで病院の待合所でバスを待てるということで、利用環境の改善にも役立っている。
議長	・運行事業者から補足はあるか？

委員 (バス事業者)	・循環バスについて、西ルートはマルナカスーパーセンター宇多津店のバス停を店舗入り口に設置できた影響が大きい。宇多津町のコミュニティバスのバス停も隣接していて乗り継ぎ接続ができる。そのバス停だけの利用者でみると昨年比３倍ほどになっている。坂出駅前のイオンの休業により、マルナカスーパーセンター宇多津店まで買い物に行っている人も多い。 ・東ルートについては、利用者が減少しているので、原因追及を図っていきたい。 ・王越線の再編では、デマンドタクシーとの連携を実施。路線バスとしては、林田エリアの大部分では便数を維持できているが、木沢行きは大幅に減便したことで、高屋での利用者が減少傾向にあることや、これまで利用されていた外国人のかたの利用が減っていると思われる。 ・休日のお遍路さんについても、坂出駅から青海方面へのニーズがあるが、林田循環線とデマンドの乗り換えで、事前のデマンド予約が難しいというところもある。
委員 (デマンド事業者)	・外国人のかたへの対応について、スマホ予約については、松山エリアで働いているかたが多いミャンマーの言語に対応できるよう改善を行った。 ・今後は外国人のかたが多い農園や介護事業者のほうに説明に行きたいと思っている。 ・王越町の小中学生の下校の利用が多いのと、ハローズ坂出林田店の利用も増えてきている。 ・運営側の課題としては、乗り継ぎ運賃や障がい者割引等が複雑で、運転手や事務員が苦労している。 ・東南エリアでは、12月実績では、1便当りの乗合率２人以上を１ヶ月単位で初めて達成した。 ・複数の予約があって乗り合う際に遠回りになるので、その分時間がかかることについては、やや不満の声がある。
委員 (デマンド事業者)	・南エリアのデマンドでは、従来利用が少なかったが、10月から拡大されたエリア等で利用が増え、ほぼ毎日利用がある。 ・先ほどの事業者同様、割引運賃等が複雑で、誤りを気づいて後で返金処理を行ったりしていたが、運転手・事務員ともにだいたい慣れてきた印象である。
議長	・坂出の協議会では、運行事業者さんが利用者ニーズや現場の声をあげていただけるので、地域公共交通の再編に役立っており、運行事業者のみなさんには感謝申し上げます。 ・地域目線では何かあるか？
委員	・個人的には、南エリアの運行区域拡大により、デマンド利用が便利になった。

副会長	・利用していて思ったのは、定刻に乗降場所で待っていると車両の到着が 20 分ほど遅れたことがある。恐らく、乗合が発生し、川津町内での移動があったと思われる、デマンドの性質上仕方ないことであるが、複数の予約があった際には、何番目の予約である等伝えていただければ、待ち時間の目途がつくのでありがたい。 ・デマンドタクシーの時刻の設定の仕方については、他地域でも、何時に来るか分からないということで不安を感じているところがある。利用者にとって利便性が高く、事業者にとっても負担が小さい形で工夫を図ればよいと思う。 ・東北エリアデマンドのチラシについては、網羅的に内容を組み込まなければならぬため、パッと見て少し分かりにくい部分もあるかと思う。そんな中で、王越ささえ♥隊のメンバーで独自の王越住民向けのパンフレットを作って、地域に配布いただいた。そのような地域の取り組みもあって、地域で初めてのデマンドタクシーがある程度利用されているということもあると思う。 ・王越ささえ♥隊の会議に参加させていただいて感じたこととして、路線バスはあくまで路線バス、デマンドタクシーはあくまでデマンドタクシーだということ。路線バスを使っていた人が全てデマンドタクシーを利用できるかといえそうではなく、先ほどの外国人のかたがその一例になる。一方でデマンドタクシーであれば、浜焼山集会場の地域のかたなど今までの路線バスでは利用できなかった人が利用できるようになったということもある。 ・青海地区では、連携計画前にバス路線がなかった地域に、連携計画に基づいて路線を導入した地域であるが、従来の路線バスの利用も少なかった。路線バスが区間廃止となり、デマンドタクシーに移行しても利用が少ない状況ではある。 ・路線バスかデマンドタクシーかという問題ではなく、限られた輸送資源の中で、上手に組み合わせながら、地域の人々がお出かけしやすい交通体系を作っていくことが大切と感じている。人員・車両・予算などに限りがある中で、全員が満足するものを作るのは難しいと思うが、その限られた資源をどういう風に組み合わせしていくかというチャレンジをしていく必要があり、坂出の場合は運行事業者のみなさんも含めてそういった取り組みができていますので、今後みなさんに協力いただきながら、さらに推進していただければと思う。
議長	・デマンドについて他地域の事例を聞いていると、オペレーターの技量が大きいと感じている。利用者が増えてくるについて、オペレーターの技量も磨かれてくると思うので、引き続き事業者間でも情報共有も図りながら、利便性を向上に取り組んでほしい。
協議事項(6) その他	

発 言 者	発言要旨
議長	その他として、委員のみなさん、事務局から何かあるか。
委員 (坂出市)	・協議会ではいつも熱心なご議論をいただき感謝申し上げます。 ・バス事業者からドライバー不足について報告があったように、今後もドライバー不足の状況が続き、地域の路線維持に苦慮していくことが想定される。 ・行政としては、現在の運行形態に限らず地域にとって最適な運行形態を模索していく必要があると考えている。 ・そのような背景の中で、新年度、国土交通省の補助金を活用して、自動運転の実証実験を行えればと思っており、採択されるよう準備を進めていきたい。 ・自動運転についてはあくまで実証実験で、商用化されるには相当の期間を要すると思われるが、行政としても地域公共交通の確保維持に向けてはあらゆる可能性を排除せず検討してまいりたいので、引き続き委員の皆様にはご支援をお願い申し上げたい。
議長	・自動運転では長野県の塩尻市が好事例と思っている。そういった他地域の事例も参考に進めていっていただければと思う。
委員 (坂出市)	・もう1点坂出市から報告があり、坂出駅前の再整備を行っており、昨年事業者と契約、現在詳細設計を進めているところである。早ければ来年度秋ごろから南口にバスロータリーを整備していくことになり、整備が完了すればそちらを利用いただくようになる。その後、北口についても整備が始まり、バスやタクシーの動線も変わってくると思われるので、ご協力いただきたい。
議長	・まちづくりで新しい動きが進んでいて、公共交通も使いやすくなると思う。 ・公共交通が使いやすくなることで人口が増えるということも実現可能と思われるので、そこを目指していただきたい。 《議事終了》